

登録室紹介—山梨県

山梨県福祉保健部 健康増進課

1. 山梨県の紹介

山梨県は、日本列島のほぼ中央に位置し、南に富士山、西に赤石山脈（南アルプス）、北に八ヶ岳、東に奥秩父山地と、海拔 2000m を超す山々に囲まれるなど、自然環境に恵まれた地域です。また、首都圏まで 1 時間半でアクセスできるという恵まれた立地条件にあり、ぶどう、もも、ワイン、水晶など特産物も多く、富士山や富士五湖、昇仙峡の他、数多くの名湯など観光地としても有名です。総人口は約 87 万人、市町村数は 27（13 市、8 町、6 村）、高齢化率 23.6（平成 21 年 4 月）、出生率 8.1、医療圏数 4、がん診療連携拠点病院数は 3 か所（平成 22 年 4 月 1 日現在）となっています。

2. 登録室の紹介

山梨県の地域がん登録の特徴は、標準データベースシステムの新規導入及び県が直営で実施していることです。平成 19 年 4 月に登録事業を開始し、今年度で 4 年目を迎えました。

県庁旧館の 3 階にある健康増進課に隣接した「狭いながらも快適な専用ルーム」で登録業務を行っており、サーバーは 2 台、静音タイプを使用しています。登録室前には、地域がん事業を担当する「成人保健担当職員」が執務しながら、登録室の安全管理を守っています。なお、「成人保健担当」は、がん対策推進計画やがん対策事業の他、歯科保健、原爆医療を担当しており、地域がん登録職員を含めて、正規職員 4 名と非常勤職員 2 名の 6 名体制です。また、昨年モデル県としてヒアリングを受けた結果を生かし、地震や水害（漏水）などの天災からデータを守るため、県庁内の別棟にある情報政策課の専用ルームにバックアップの保管を依頼するなど、他部局の協力も得ながら体制を整えています。

登録室の構成員は、管理者が医師である荒木健康増進課長、実務管理者が成人保健担当の仲山補佐、実務者が担当リーダーでありがん対策を兼務する保健師



の山下副主幹、非常勤職員の新藤職員と加賀美職員です。

平成 19 年度から平成 21 年度までの 3 年間、実務者は、他の業務と兼務している正規職員 1 名と専任の非常勤職員 1 名の 2 名体制で行ってききましたが、平成 22 年度からは非常勤職員が 1 名増員となり、実務者 3 名体制となりました。増員により、さらにスムーズな登録ができています。

今年度は、登録メンバーが増員したことにより、新たな体制整備をめざし、朝のミーティングの定例化や、役割分担の明確化、安全管理面での対策強化に力を入れています。

4 月の着任研修、6 月に県としての情報セキュリティの研修の他、実務研修の受講など、資質向上にも努めています。最近では、地域がん登録未実施の県の視察が多く、6 月に埼玉県、奈良県、7 月には大分県の関係職員を受け入れる予定です。

3. 登録状況

山梨県内のがんによる死亡者数は、平成 20 年が 2,462 人で、全死因の 28.2% を占めている中で、登録を開始した平成 19 年 4 月から 12 月については、医療機関から 866 件、平成 20 年は、4,199 件、平成 21 年は 4,660 件の登録票の届出がありました。また死亡転写票は、毎月 25 日に保健所担当者が持参し、その月内から翌月上旬までには、「腫瘍あり」の死亡転写票を全数入力しています。また「非腫瘍」は、集約や統計の観点から、半年後入力としています。

平成 21 年 12 月に、2008 年症例を参考値として初めて統計データを作成したところ、2008 年届出票受理途中であり、遡り調査未実施の状況下で DCO 率は 30.8%でした。

今年度は初めての「遡り調査」を実施して、さらに精度の高いがん登録を目指したいと思います。

また、県内の医療機関等の協力を得るため、関係者研修会や担当者会議、地域がん登録推進委員会を開催し、関係者の意見や助言をいただきながら「山梨県地域がん登録」の推進を図っています。

4. おわりに

地域がん登録の開始から今日まで、国立がん研究センター祖父江部長、味木室長、放射線影響研究所の片山先生、堂道先生、山形県の柴田先生はじめ、他県の実験医の皆様方に御助言・御指導とサポートをいただく中で4年目を迎えることができましたことに改めて御礼申し上げます。今後も、精度の向上をめざし、関係職員一同力を合わせてがんばっていききたいと思っておりますので、引き続き、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

第 32 回国際がん登録協議会学術集会 (IACR2010) の開催直前情報

松田 智大

事務局、IACR2010 会場委員長

本協議会が共催する第 32 回国際がん登録協議会学術集会 (IACR2010) 開催まであと 3 ヶ月を切りました。本会は、10 月 12 日 (火) から 14 日 (木) の日程で開催されます。日本のがん登録は、現在いろいろな意味で岐路に立たされています。そんな中 IACR2010 が日本で開催されるということは運命的・象徴的であり、感慨深いところです。IACR2010 は皆様の記憶にずっと残るようなモニュメンタルなものとなるでしょう。

1. まだまだ間に合う！

9 月 10 日までオンライン参加登録受付中

WEB (<http://www.cancerinfo.jp/iacr2010/>) による事前登録を 9 月 10 日まで受け付けます。事前登録料は

45,000 円、当日登録料は 50,000 円で、昼食やウェルカムレセプション、夕食会などの費用が含まれます。本協議会の正会員、賛助会員の機関・団体に所属される関係者の皆様向けに、食事を含まない特別登録料 15,000 円も準備致しましたのでこちらでもご利用ください (<http://www.jacr.info/index.html>)。

10 月 11 日 (月) のプレミーティングコースでは、「生存解析」の講義を、同分野での第一人者であり国際プロジェクト CONCORD study の中心人物でもあるロンドン大学公衆衛生学・熱帯医学大学院のコールマン先生にお願いしています。是非奮ってご参加下さい。

2. 世界 50 カ国弱からの参加予定者

—文字通りの国際学会に—

本協議会会員の皆様のご協力により、204 題の演題投稿がありました。投稿演題の主著者の国籍を地域別に見ますと、アフリカ・中南米 9%、アジア・オセアニア 58%、ヨーロッパ 30%、北米 3%となります。国名を羅列すると、アルジェリア、アルゼンチン、オーストラリア、ベラルーシ、ブルガリア、カメルーン... と総勢 47 カ国、ワールドカップのような多彩な国々が揃いました。他の臨床医学系学会と比して小規模ではありますが、文字通りの国際交流の貴重な機会となるでしょう。

キーノートスピーチも、様々な地域の先生方をお願いしています。日本からは、児玉和紀先生 (放射線影響研究所)、溝上雅史先生 (国立国際医療センター国府台病院肝炎・免疫研究センター)、また海外からは、David Forman 先生 (英国、IARC)、Freddie Bray 先生 (ノルウェー、IARC)、Renee Otter 先生 (オランダ、IKN)、Jean-Michel Lutz 先生 (スイス、NICER/ ENCR)、Joe Lipscomb 先生 (米国、Emory 大学)、Hai-Rim Shin 先生 (韓国、WHO)、You-lin Qiao 先生 (中国、Cancer Institute/Hospital Chinese Academy of Medical Sciences) と、錚々たる顔ぶれとなっています。